

都市計画マスタープラン改定検討部会委員からの アフターコロナ・ウィズコロナを踏まえた今後のまちづくりの論点

全体に関すること

- アフターコロナに関する方向性は、拙速に7月の段階で方向性を出すということにはならないのではないか。ニューノーマルな議論が、各界で出るのを踏まえて考えていくべき
- これまで以上に“安全・安心”という言葉は慎重に使うべき

第2章 まちづくりの理念・将来像に関すること

- SDGsの17のゴールのトピックをどう考えていくか
- 新しい日常の下での創意工夫、働き方の変化、様々な活動の進展などの変化とそれらによる課題をどう捉え、どう戦略を練るかが重要になる
変化：
 - ・ 中小ビルのあるエリアのオフィス需要の動向
 - ・ 都市の維持管理方針のあり方
 - ・ 今の都市の姿（消費構造を促す都市空間・制度）の今後の方向性
 - ・ オフィスや住宅など床を生むだけでなく価値創造の考え方
- スマートシティについての考え方を整理すべき
 - ・ データは都市のインフラであり共通のプラットフォームとし、地区での施策は独自にとる
 - ・ プラットフォーム構築のための区のかかわり方
 - ・ QOL向上のためのツール など

第3章 まちづくりの目標と方針に関すること

(1) 豊かな都心生活と住環境をまもり、育てるまちづくり

- 区内通勤者の安全性確保の視点を都市マスとしてどうするか
- 密にならないコミュニティのあり方、人が集う場のあり方をどうするかについて着目しなければならない
- 生活に最低限必要な外出を対象とする場合、スーパーなどの区民等にとって身近な施設を重視した捉え方が必要になる
- リモートでできることとできないことがあり、働き方の多様化は、業種・業態によっても進み具合が異なる
- 規制というよりは緩和の方向で考え、東京都全体・日本全国への影響についての視点を持つべき

(2) 緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

- 緑地・水辺空間などの都市空間、身近な公共空間がますます重要になる
キーワード：豊かな歩道・ベンチ、密を避けながら賑わいを生む（オープンテラスなど）、千代田の骨格・視点場を活かす、一人でほっと静かに過ごせる など

(3) 都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり

- 社会的共通資本（看板建築、個人商店の生業、人の思い、文化やコミュニティのつながりなど）を政策的な問題として捉えるべき
- 個人が都市に土地を所有し住み続けることの難しさを考慮すべき
- 場所・まちの個性・培ってきた文化、それが落とし込まれたハードも含めどう保っていくかが重要である
- 働き方の多様化等の変化によりまちの再生のあり方にも変化が起こるのではないかな
変化：
 - ・建物の内外を含めたオフィスのあるべき姿
 - ・都市の顔となる建物

(4) 道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

- ウォーカブル・豊かな歩道に加え、その周辺地域でどう過ごすかという視点を持つべき

(5) 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

- 区民の高齢者・障害者の外出行動の変化し、地域の中での過ごし方がより重要になる

(6) 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

- 災害時の3密を避けた避難による避難所・一時滞在場所等のあり方を考えるべき
キーワード：避難所の一人当たり面積の増加、収容可能人数の減少、災害時のBCP確保、エネルギーの確保（大丸有など） など

第4章 地域別まちづくりの目標と方針に関すること

- 秋葉原における密と疎の考え方が変わった時に、広場空間はどうするべきか

第5章 都市マネジメントの方針に関すること

- 地域主体のエリアマネジメントの位置づけが改めて重要である
- 立体的・空間的にまちを把握し、マネジメントする視点を持つべき
キーワード：都市のボリューム感、密度、空気の抜け感、緑の連坦性、開発の連坦性 など